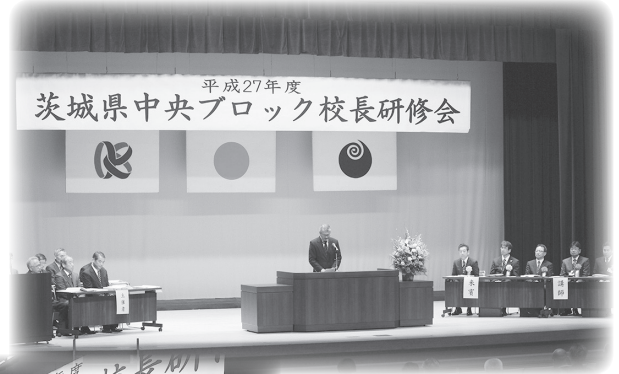


# 平成27年度中央ブロック校長研修会 全体会



【会場】 笠間公民館



茨城県中央ブロック校長会連絡協議会長  
勝村 登



笠間市教育委員会教育長  
今泉 寛 様



茨城県学校長会会長  
坂場 克身 様



茨城県水戸教育事務所長  
伴 敦夫 様

## 本県教育の目標

ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう  
 じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う  
 郷土を愛し 協力しあう心を育てる

## 実 施 要 項

- 1 趣 旨 県学校長会の事業計画により、充実した研究発表・協議等を行い、校長としての資質向上を図り、本県教育の充実発展に寄与する。
- 2 主 題 新しい時代を拓く、心豊かな日本人の育成
- 第1分科会 創意と活力に満ちた魅力ある学校経営
  - 第2分科会 教職員の資質を高める現職教育
  - 第3分科会 新しい教育を創造する教育課程
  - 第4分科会 豊かな学校生活を目指す教育諸条件の整備
  - 第5分科会 健全な心と体を育てる教育
  - 第6分科会 開かれた学校づくりを目指す家庭・地域との連携

### 3 日 程

	13時	14時	15時	16時
	00分	30分	10分	30分
内 容	開場	移動 受付		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">全 体 会</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>①開会のことば</li> <li>②県民の歌斉唱</li> <li>③主催者あいさつ</li> <li>④来賓あいさつ</li> <li>⑤講師代表あいさつ</li> <li>⑥来賓並びに講師紹介</li> <li>⑦閉会のことば</li> <li>⑧諸連絡</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">分 科 会</div> <p style="text-align: center;">1・2・3分科会（笠間市民体育館）                  4・5分科会（笠間公民館）                  6分科会（笠間図書館）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     1・2・3分科会                      ①提案発表 14：35～14：55                      ②質疑・協議 14：55～15：45                      ③講師指導 15：45～15：55                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     4・5・6分科会                      ①提案発表 14：35～14：55                      ②質疑・協議 14：55～15：45                      ③休憩 15：45～15：55                      ④講師指導 16：00～16：10                 </div>	

平成27年度  
中央ブロック校長研修会  
分科会記録

第1分科会	創意と活力に満ちた魅力ある学校経営……………	4
	—子供と教職員が共に伸びる学校を目指して— 水戸市立大場小学校	吉川明宏
第2分科会	教職員の資質を高める現職教育……………	6
	—職員の意識の啓発とミドルリーダーの育成を通して— 笠間市立宍戸小学校	菅又章雄
第3分科会	新しい教育を創造する教育課程……………	8
	—児童の自己肯定感や自己有用感を高める学校経営を目指して— 城里町立桂小学校	古市敏夫
第4分科会	豊かな学校生活を目指す教育諸条件の整備……………	10
	—学校環境の維持・管理を目指して— 那珂市立第三中学校	神代光史
第5分科会	健全な心と体を育てる教育……………	12
	—「のびのびと 素直で 元気な美杉っ子」の育成をめざして— 常陸大宮市立美和小学校	長山透
第6分科会	開かれた学校づくりを目指す家庭・地域との連携……………	14
	—地域支援による豊かな学び・学校づくりを目指して— ひたちなか市立勝田第三中学校	河野弘毅
<参考>	平成28年度中央ブロック校長研修会分科会分担（案）……………	16

# 第1分科会 創意と活力に満ちた魅力ある学校経営

## — 子供と教職員が共に伸びる学校を目指して —

[提案者] 水戸市立大場小学校 …………… 吉川明宏

[分科会出席者数] 24人

### 1 提案内容の概要…「平成27年度 中央ブロック校長研修会資料」P. 4～7

#### 2 協議内容

<司会者>

- それでは、意見・感想等を含めて、先生方にご意見をうかがいます。

<勝倉小・沼田>

- 教職員が一体となった学校に勤務できてうらやましく思います。男女構成、平均年齢、年齢の高い教員への対応等をお聞かせいただけますか。

<提案者>

- 担任で男の方は一人です。2～3年前は高かったのですが、担任の平均年齢は43歳程度です。ベテランの先生への対応については、日常的にようすを聞きながら、時には強引にでもお願いをすることがあります。

<友部二小・森田>

- 2つ質問させていただきます。1つ目は、水戸まごころタイム（水戸市に関する内容）は、全学年で何時間程度行っているのでしょうか、という点です。2つ目は、集会・行事での感想発表の方法について、もう少し教えていただきたいということです。

<提案者>

- まず2については、ランダムに、その時の司会の児童が指名します。昨年からは、発表者にも感想を求めようとしています。1については、週1時間程度でしょうか。

<大洗小・船生>

- 2つほどお聞きしたいと思います。1点目は、統合をしない理由について、2点目は、校舎等の建築の期間の体力・運動能力の低下にどう対応されているのか、また、県の指定に応じて加配教員の有無についてをお聞きしたい。

<提案者>

- 1については、地域の特色を出すことが大切という市の意向があります。学区内に新たな団地も造成されており、本校に入学したいと思ってもらえるよう、一層魅力ある学校づくりに努めたいと考えています。2については、加配はありません。3年間の流れに沿って、学校の課題を見つけ、それに合わせた取組を展開する方法をとっています。時間的な制約はありますが、体育授業サポーターを入れていただいています。

<司会者>

- それでは、質問に続いて、協議に入ります。教職員の意識改革の重要性という点ではいかがでしょうか。

<提案者>

- 本校では、一斉授業をどうやめるか、体育では、児童の運動量をいかに多くすることからのスタートとなりました。要は、授業に対して、教員の変わらなければいけないという意識をどう生み出していくかが、もっとも努力を要する部分でした。

<司会者>

○ いかに関員の意識を変えるか、具体例・実践例を共有したいと思います。

<小川南中・小笠>

○ 先生方は、基本的にまじめです。やる事が明確になるとやれる人たちです。私どもの学校では、戸籍まわりに関する課題がありました。言葉で伝えてもなかなか改善されなかったため、警備会社から示された具体的な数値・状況を提示し、考えてもらい、改善の第一歩目を踏み出すことができました。授業では、「主体的な・・・」ということばをよく使いますが、あいまいなままでは、なかなか動けませんので、気づきの時間・考える時間等、具体的にわかるようにしました。2つとも、現状を確認した上で、具体的な行動がわかるようにすることが大事だということを感じました。声だけの意識改革ではなく、教員も巻き込みながら進めることが大切なのではないでしょうか。

<常磐小・大高>

○ 意識を変えるということ言えば、本校のスローガンは、児童も教師も共に学び、よい方向に変わらしようというのですが、今年度は、指導案のブロック共同立案という方法を用いています。また、授業は少しでも必ず参観に行くという約束を決めています。児童も教師も常に学び続ける存在であることを、繰り返し言い続けることが大切だと感じています。

<枝川小・川又>

○ 管内でもっとも小さな学校が本校です。本校の児童たちの傾向として、学校では元気、外では内気という部分があります。私どもは、先生方にそのようすを実際に見てもらって、学校の課題として意識してもらおうと取り組んでいます。例えば、将来中学校で一緒になる中学校区内の他の小学校と一緒に校外学習を企画し、実際のようすを見て、課題の改善に結び付けるという試みを始めました。

<友部二小・森田>

○ 校長があまり出しゃばりすぎないということも大事だと思っています。本校では、教頭・教務主任をはじめとして、様々な課題に複数で対応し、成果を実感しつつあります。独りよがりではなく、みんなでという意識が大事だと思います。

<笠間中・小池>

○ 校長として、校務分掌を担う人材を大きく変えるというのも、一手です。1つのものごとを起こすということが、意識を変える上で大切だと考えています。決断して、実行すればやれます。

<司会者>

○ 様々なご意見・ご提案、ありがとうございました。教職員の意識のもち方について、今後も様々な機会を活用して、情報の共有を進められるようにしていきたいと思っています。

### 3 係

- ・世話係 上 田 壽 行 (水戸市立浜田小学校)
- ・司会者 堀 江 俊 夫 (水戸市立上中妻小学校)
- ・受付 足 達 幸 子 (水戸市立石川小学校)
- ・記録者 大和田 栄 (水戸市立梅が丘小学校)



<提案者> 吉 川 明 宏 先生

## 第2分科会 教職員の資質を高める現職教育

### — 職員の意識の啓発とミドルリーダーの育成を目指して —

[提案者] 笠間市立宍戸小学校 …………… 菅 又 章 雄

[分科会出席者数] 28人

#### 1 提案内容の概要…「平成27年度 中央ブロック校長研修会資料」P. 8～11

#### 2 協議内容

<司会者>

- ただいまの提案について質問や感想があればお願いしたい。

<稲荷一小・川井>

- 力をつけてもらいたいという校長の思いは私たちには十分伝わったが、新採教諭や年齢の高い職員はどのような反応をしたのか、また「校長室だより」を発行する場合の視点や校長の一貫した思いがあれば伺いたい。

<提案者>

- 新採もベテランもなく、記事の内容が職員室で話題になることが増えてきた。また校務分掌者に指名回覧するなど、きちんと目を通し感想等の返事を記入せざるを得ない状況にしている。
- 切り抜きは、一般紙からは教員として知っておいたほうがよいと思う情報を、教育専門紙からは教育界の旬の話題のシリーズものなどを切り抜いて回覧している。

<司会者>

- ミドルリーダー育成のために各校で取り組んでいることを伺いたい。

<佐野小・宮田>

- 本校は毎年新採が配置される大規模校であり、意識的にペアを組んで取り組ませることも効果がある。2年目の職員と新採のペアとか。職員の意識改革のため、ミドルリーダー育成のために具体的にどのようなことを実践しているのか。

<提案者>

- 「教職員年齢構成グラフ」を全職員に提示し、ここ数年で大量退職時代となり、ベテランが退職し、現場の混乱も予想される。ブラッシュアップなどいろいろな機会を利用して切磋琢磨する雰囲気をつくり、リーダーにしたい職員には管理職から思いや期待を伝え、他の職員にも助言を積極的にするよう伝えている。

<司会者>

- 職員の意識改革、ミドル育成について他に実践例はないか。

<市毛小・藤枝>

- 学校の規模による違いもある。本校では学年毎にリーダーの育成を意識している。

<提案者>

- 佐野小で実践されていることで、良かった例を教えてください。

<佐野小・宮田>

- 指導案の共同立案は効果があったと思う。縦の繋がりだけでなく、横の繋がりも意識でき、「作り上げていく指導案」という意識を育てられた。反面、授業はうまくはなっていくが、経験がものをいう児童や保護者との接し方などには指導・研修が必要であると感じた。

<司会者>

- 他に若手やALTを育てる取組があればお願いしたい。

<提案者>

- “チーム学校”という視点でも実践例があれば聞かせていただきたい。

<菅谷小・草柳>

- 新採教員は、指導教員と校内指導員の2人が連絡調整し、指導に当たっている。また新採教員は“指導の記録”を管理職に提出することになっているので、そこに校長としてのアドバイスを記入している。

<提案者>

- 本校の指導員も非常に熱心で、そのあまり新採が負担を感じているような時期もあった。焦らないで、少しずつ、負担にならない程度に…と指導員に話した。

<前渡小・菊池>

- 新採やミドル育成については研修等も非常に手厚く行われている。しかし、新卒の講師が研修もほとんどないままに担任をもたざるを得ないのが現状である。本校では指導案は自己責任で作し、授業に臨んでいる。当然周囲にいろいろと聞きながらではあるが。要請訪問は年5回実施し、その中で誰もが1回は授業を公開することになっている。

<吉田小・丹>

- 若手教員の中には、教師としての資質もあり力があると感じる教員と、“アレッ”と感じる教員が交ざっているのが困っている。1年目～3年目、全職員でやっていく、見守っていく、そして育てていくことが大事。

<三の丸小・竹内>

- 職員一人一人の研修へのニーズは、経験や役職で変わると思う。管理職からの一方的な見方ではダメ。与えられる研修から求める研修にするために、本校では面談の中で論文、内留等自分で選択させて取り組ませている。また、“見える成果”も大事だが、児童に好かれている先生など、“地味で目立たない部分”を管理職はよく見ていく必要がある。

ミドル育成は同僚から支持され、尊敬され、頼られていることなどが大事なのではないかな。

### 3 係

- ・世話係 安 島 一 之 (笠間市立岩間第三小学校)
- ・司会者 岩 上 義 宏 (笠間市立南小学校)
- ・受付 柏 容 子 (笠間市立岩間第一小学校)
- ・記録者 廣 原 真 (笠間市立岩間中学校)



<提案者> 菅 又 章 雄 先生

## 第3分科会 新しい教育を創造する教育課程

### — 児童の自己肯定感や自己有用感を高める学校経営を目指して —

[提案者] 城里町立桂小学校 …………… 古市敏夫

[分科会出席者数] 27人

#### 1 提案内容の概要…「平成27年度 中央ブロック校長研修会資料」P. 12～15

#### 2 協議内容

<司会者>

- 提案に対し、質問や感想等をお聞かせ願いたい。

<津田小・小川>

- 全児童と面談をしているとのことだが、心掛けていることは何か伺いたい。

<提案者>

- 昨年は、5,6年生と面談をした。学校をリードする5,6年生が、どのような目標をもっているか知りたかった。児童には、学期ごとの目標を聞いている。休み時間に、児童の所へ出かけて行って面談をしている。校長室ではないことで、リラックスした雰囲気で行える。児童一人一人の目標を知り、支援してあげたい。

<司会者>

- 児童理解のために、おもしろい取組をしている学校があれば伺いたい。

<千波小・大高>

- 発表の中で児童の個票を持っていたが、あらかじめデータを入れたものを用意していたのか。大規模校で800名も児童がいると、全ての児童の名前を覚えることができない。なんとかふれあいの機会をつくり、児童理解に努めたい。

<司会者>

- 大規模校では、児童と接する機会をどのようにつくっているのか伺いたい。

<田彦小・鹿志村>

- 大勢いると、一人一人とはなかなか話す機会が無く、理解は難しい。授業の填補で教室に入り、児童の様子を前から見る機会を大切にしている。

<司会者>

- 給食の時間に、会食することでふれあってる方もあると思う。

- 児童に自己有用感をもたせることは難しいが、アイデアあふれる取組があれば紹介していただきたい。

<大原小・廣澤>

- 同じくらいの学校規模なので、発表はたいへん参考になった。児童が自己を評価し、振り返る場が少ないのではないかと思う。縦割り班活動が、自己有用感を育てる場になるかもしれない。

<司会者>

- 校長の児童へのかかわりは大切だが、先生方にはどのように指導しているのか。

<大原小・廣澤>

- 縦割り班活動の年間指導計画について、指導を入れた。学校の組織目標を達成するために、活動を見直してもらった。



<提案者>

- 体力向上で、サーキットトレーニングを行っていた。年間通して行うことと、年度の終わりに児童が「みんなで活動してよかった。」と言える活動にするよう指導した。
- 地域との交流を兼ねた「かかしまつり」という行事では、竹でトーテムポールを作ったり、どんど焼きで無病息災を喜んだりする活動に、起承転結のストーリーをもたせるよう指導した。児童同士のかかわりを多くして、最後には「楽しかった」「良かった」と言えるものになるよう、児童が運営し、達成感が味わえるような活動にするように指導した。

<司会者>

- 主体的な活動については、何か参考になる取組があれば伺いたい。

<内原小・飯村>

- 私の学校は児童数400名程度で、縦割り班活動を行っている。「何のために」とか「何を目的して」といった部分が大切であると感じた。本校で行っている歩く会では、低学年は途中で帰るなど配慮したが、8kmの行程を上級生が下級生の面倒を見ながら歩くことができた。創作ダンス発表会も行っており、5、6年生を中心に、みんなで考えて発表することができた。ストーリー性のある、筋の通った、目的のはっきりした縦割り班活動ができているように思う。

<司会者>

- 自尊感情を高める取組が他にありましたら紹介していただきたい。

<袋田小・森田>

- 本校の児童も、自尊感情が乏しいと感じる。児童の出番を増やしたり、賞賛の場をつくったりしている。誕生月に校長と給食を一緒に食べる取組を行っている。児童のデータを集め、個票をつくり、会食時の話題づくりに活用している。
- 提案者は、個票をどのように活用しているのか。また、ホームページ上で毎日情報を発信する手立ては、どのようにしているのか伺いたい。

<提案者>

- 面談カードは、データベースソフトを使い、学年や登校班などのキーワードで検索して、活用している。祖父母まで広げた人間関係も把握するようにしている。校長と児童との人間関係づくりや児童の将来の夢を応援するなどの目的で活用している。
- ホームページ上での情報発信は、情報主任に任せている。電源投入後に、学校のホームページが立ち上がるように設定しており、多くの教職員が、朝にホームページを目にできるようにしている。校長が毎日話題にし、外部の人たちにも宣伝して、見てもらえるよう配慮している。

<司会者>

- 個人情報への配慮などを考えると、公開に足踏みしてしまうが、皆さんはどうか。

<舟石川小・黒田>

- 年度初めに、保護者から情報公開の承諾書ももらっている。

<司会者>

- 写真の公開で、画質を落としている学校はどのくらいあるか。  
挙手 5名

### 3 係

- ・世話係 林 豊 夫 (茨城町立青葉中学校)
- ・司会者 池 田 晃 一 (城里町立沢山小学校)
- ・受付 西連地 祐 二 (大洗町立大貫小学校)
- ・記録者 佐 川 雅 美 (茨城町立長岡小学校)



<提案者>古市敏夫先生

## 第4分科会 豊かな学校生活を目指す教育諸条件の整備

### ― 学校環境の維持・管理を目指して ―

[提案者] 那珂市立第三中学校 …………… 神代光史

[分科会出席者数] 25人

#### 1 提案内容の概要…「平成27年度 中央ブロック校長研修会資料」P. 16～19

#### 2 協議内容

<司会者>

- 提案内容に対する感想や質問をお願いしたい。

<水戸一中・田邊>

- (発表を拝聴して) かつて三中を訪れたときに、野球場に全面芝生が張られていることに感激した記憶が蘇ってきた。その維持・管理の苦勞に敬意を表する。私が中学生だった頃は花壇の草むしりが多かった。三中の生徒の意識はどのように育っているのか。

<提案者>

- 生徒は、他の中学校も自分たちと同じ環境条件だと思っていた。実際、かつては体育の時間等を活用して環境の整備にあたった結果として文部大臣賞を受賞したようである。今は、三中の敷地が広く、草が多いという意識が育ち、部活動の時間をカットして40分間、愛校作業にあたっている。どのように育っているかとの質問に対しては、素直で落ち着いている姿は見られるが、豊かな心をもっているかどうかは、今後検証していきたいと考えている。

<水戸一中・田邊>

- (心が) 育っているからこそ、今の三中を維持できているのでは…。「縦割り班」が効果的だと思う。

<水戸四中・佐藤>

- 私が太子南中の校長であった頃は、生徒一人一人が部活動終了後草取りをしていた。一人一人が美術の授業でデザインした「マイ・鎌」をもっており、その鎌には愛着をもって作業にあたっていた。現任校ではバケツに鎌を入れたままであるから、鎌に愛着をもつところではない。

<提案者>

- 本校では、新任職員には「マイ・鎌」をプレゼントしている。昨年赴任したときの荒れていた梅林は、その年の秋に改造を施し、今では乗用芝刈機が梅林に入れるようになった。

<上小川小・鈴木>

- 害虫に対しては、殺虫剤を使用してはいかがか。

<提案者>

- 殺虫剤は、生徒が入り込まない場所、例えばお茶畑の周囲のみに使用している。

<東海中・野沢>

- 先生方が前向きな姿勢で作業を楽しんでいるように思った。その秘訣は何か。

<提案者>

- 朝は、校長と事務職員以外は生徒と一緒に戸外で草むしりをはじめ、環境整備活動に常時あたっている。なお、常に「ありがとう」の言葉かけを心がけている。また、生徒会に落ち葉対応を仕掛けた。例えば、月曜日の担当は野球部、火曜日は…というように。

<山方南小・平塚>

- (市長や教育長をはじめとする) 卒業生によるボランティア等, 人を集める上での苦勞話を聞かせてほしい。

<提案者>

- 昭和62年に内閣総理大臣賞を受賞して以来, 保護者も環境整備に注目が集まり, きれいな母校をいつまでも維持していこうとの意識が継続していることによるものだと考える。

<那珂湊中・道口>

- (広い校地に対して) 防草シートを敷いて草が生えにくくしている。

<提案者>

- 樹木が障害となっているのだが, 何かよい対応策はないか。

<小川北中・戸塚>

- 校舎の建て替えにより, 古い樹木が伐採された。そのため, 落ち葉処理はなくなった。  
(敷地の広い) 美野里中も樹木の上方の枝を切り落としたので, 落ち葉対応は一時的にはあるが解消されている。

<提案者>

- 梅の木が48本。お茶の木は数え切れない程の本数である。

<司会者>

- P T A以外で, 環境専門のボランティアの有無について, どうか。

<水戸四中・佐藤>

- 「親父の会」とか…。高所作業車を有する人や庭師さん, 大工さんなど, 親父の力は大きい。

<提案者>

- 「花と樹木のプロジェクトチーム」の活動に対しては, 傷害保険に入っている。その費用はP T A後援会から支出している。チェーンソーを使用する場合は, 保険料が高い。

<稲田小・青木>

- 枝を半分に切ることによって, 落ち葉の量が減るので試してみてもどうか。

<提案者>

- 三中には樹木が数百本あり, 銀杏が10本, 栗が3本, 桑の木は切った。大木は処分費用が1本で80万円相当かかる。通常予算では対応できないため, 市校長会で要望している。

<東海中・野沢>

- 広い校地を整備する上で燃料費がかさむと思うが, その分消耗品代が減額されるのか。

<提案者>

- 減額されることはない。



### 3 係

- ・世話係 大 縄 久 雄 (那珂市立第一中学校)
- ・司会者 金 子 敬 司 (那珂市立瓜連中学校)
- ・受付 野 沢 恵 子 (東海村立東海中学校)
- ・記録係 川 又 暢 (那珂市立第二中学校)



<提案者> 神代光史先生

## 第5分科会 健全な心と体を育てる教育

— 「のびのびと 素直で 元気な美杉っ子」の育成をめざして —

[提案者] 常陸大宮市立美和小学校 …… 長 山 透

[分科会出席者数] 26人

### 1 提案内容の概要…「平成27年度 中央ブロック校長会研修会資料」P. 20～23

#### 2 協議内容

<鯉淵小・寺内>

○ 市で掲げている「郷育立市」を受けて実践している取組で、心がけていることを教えていただきたい。

<提案者>

○ 市教育振興基本計画の目標から、学校教育の質の向上として、基礎学力や学びの姿勢を身に付けさせていく。

○ 児童が、積極的に美和地域の人・もの・ことにかかわっていけるよう、家庭や地域と連携し、様々な体験や地域とのふれあいを心がけるようにしている。

<司会者>

○ 協議の柱として、連携、ふるさとを誇りに思う児童の育成、自己肯定感の醸成等について意見をいただきたい。

<柳河小・岩上>

○ 美和中が統合され明峰中になったが、小中連携でのご苦労や具体的取組を教えていただきたい。

<提案者>

○ 昨年度は美和中の閉校年度に重なり、計画立てが難しかったが、体育、図工、音楽の出前授業等をお願いした。今年度は、情報交換を密にし、具体的な取組を模索している。

<阿字ヶ浦小・川越>

○ 「保護者や地域との連携によるあいさつ運動によりあいさつがよくなった」とあるが、どのように連携を図ったか教えていただきたい。

<提案者>

○ 児童の様子をみてもらうことが、児童への刺激や教師の姿勢にも影響すると考えた。

○ 学校だよりや様々な会議を通して、あいさつ運動への協力を呼びかけたり、その様子を紹介したりした。

<芳野小・照沼>

○ 本校では、3小中が緑桜学園として小中一貫校を意識した取組を行っている。一例として、8,9年生が小学生に茶摘み体験を教えたりしているが、縦割り班で下の児童の面倒をみたりする活動は、自己肯定感の高まりにもつながっている。

<阿字ヶ浦小・川越>

○ 小中が隣接しているため、連携しやすい環境にある。あいさつ運動、合唱祭、引き渡し訓練、そして生徒指導訪問も合同で指導を受けるなど、密接な連携をしている。さらに相互授業参観も、時間割を工夫して、全員が参加できるようにしている。

<笠間小・井坂>

○ 笠間小は、今年統合で学区範囲が広がった。保護者からは、以前笠間小でやっていたことを当たり前としないしてほしいとの要望があった。児童の送迎もままならず、様々な状況の地域があり、難しさを感じる。

- 小中連携は、ねらいをどこに定めるか、どのような児童を育てていくのかの視点で推進することが大切と考える。
- 小学校では、中学校で伸びていく児童を育てる。中学校でやっていることを理解し、それに沿った指導を進めていく必要がある。
- 教育活動は、児童の姿で評価することが基本で、児童が学校生活が楽しいという声が多いほど、学校・教職員はよくやっているという評価につながる。また、その逆も然り。

<稲田中・小南>

- 学区には3つの地域があるが、各地域ごとに地域の運動会が開催される。その運動会で中学生が役割を担って参加している。このことが地域に貢献しているという気持ちを高め、ふるさとを自分たちで守っていくという意識につながっている。
- 教育資源を大切にし、幼稚園、小中12年間で、人づくりを進めている。しかし、中学校を卒業し、高校生になると、それまでの取組や意識が途切れてしまう。高校生等も巻き込んで、ふるさとを考えることのできる人づくりを考えていきたい。

### 3 係

- ・世話係 舩 井 明 子 (常陸大宮市立大賀小学校)
- ・司会者 長 岡 秀 雄 (常陸大宮市立山方小学校)
- ・受付 猿 田 美弥子 (常陸大宮市立御前山中学校)
- ・記録者 石 田 昇 (常陸大宮市立大宮北小学校)



<提案者> 長 山 透 先生

# 第6分科会 開かれた学校づくりを目指す家庭・地域との連携

## — 地域支援による豊かな学び・学校づくりを目指して —

[提案者] ひたちなか市立勝田第三中学校… 河野 弘 毅

[分科会出席者数] 27人

### 1 提案内容の概要…「平成27年度 中央ブロック校長研修会資料」P. 24～27

#### 2 協議内容

<司会者>

- 提案内容についての質問〈感想〉をお願いしたい。

<国田小中・吉井>

- 生徒の変容が見られ、教師や地域が生徒を認め励ます機会が増えたというピンチをチャンスに変えたすばらしい取組だった。校長室を開放し、一緒に語るという柔軟性がいい。

<緒川小・山口>

- 工事終了後、これまでの取組の成果を今後も維持していく構想があれば伺いたい。
- 学校関係者評価に、全職員で共有して取り組んでいくことについての効果を伺いたい。

<提案者>

- 「普段、目にすることができない生徒や職員の活躍を見ることができ嬉しい。」という地域の声を大事にしていきたい。これから構想の枝がどう伸びるかは、職員のサポートと生徒たちの力。急がない。構えとしては、地域にいつも無理というのではなく、やっていけるものと組み合わせて考えていくことが大事だと思う。
- 学校として、現状を踏まえ課題を絞り込んだら、職員の目標を具体的に学校教育活動アンケートに入れる。アンケートの結果が出てからどうするではなく、入り口の部分から今の部分を職員にも委ねていく。評価項目は校長や年度が変われば、同じ内容とは限らない。

<飯富中・雨谷>

- 教育ボランティアはどれくらいの規模なのか、つなぎを担当している職員は？
- 前渡コミセンを中心に教育ボランティアと新しい地域の輪が広がったとあるが、貴校はいろいろな立場の方が協力していると思うが、今までの関係はなかったのか。

<提案者>

- PTA担当は教務主任、教頭は金銭面の管理、校長、PTA会長はじめ役員が携わり、みんなが力を合わせ、かかわってうまく活動している。
- 学区は、大きな団地がひしめき、地域のつながりがほとんどない。自治会も違う。その中で地域の行事を通して、地域の人と顔見知りになり、生徒は声をかけられるのが嬉しいようだ。前渡コミセンを通して学校と地域の方々の関係が広がっている。

<下吉影小・久保田>

- 校長として、これまでの発表の中での取組で生徒指導上効果があったことを紹介してほしい。
- 学校公開をPTA主催にしている意図は何か。

<提案者>

- 生徒指導で一人の担任や教科担任だけが悩んでいるようではいけない。複数で対応し落ち着きが出てきた。好き勝手をする場所になりがちな教室が、協力を覚える場所ということを具体的に実行していく。そ

の中には、認めてほめてもらえる地域の役割があるのかなと捉えている。

- P T A主催は、親父の会を含め保護者の目を学校に入れ、生徒指導の抑止力にしたスタートだった。だから継続してP T A主催の学校公開日を設けている。

<司会者>

- 参観・参加・参画していくP T A主催の行事などがあれば伺いたい。

<青葉小・吉川>

- 今年4つの小学校が統合した。地域の方々から「児童がいなくなり寂しい。」という話が出た。そこでP T A役員を中心に、旧小学校区で3世代交流を無理なくしていくことになった。

<明光中・高倉>

- P T A主催による地区生徒会という小学校単位の組織を運営している。かつて生徒指導の指定を受け、学校の生徒である前に地域の生徒として、廃品回収の活動を行っている。
- 学校公開日を設けているが誰も来ない。人数、校長先生とどんなことを話しているか。

<提案者>

- 午前と午後に分けて、多いときは12人ぐらい。10人以上来てくれると、お母さんたちとも和んだ雰囲気でお話ができる。工事の件も含め学校の新しい情報をお伝えしている。

<納場小・塩田>

- 地域の連携には学校が置かれている地域性が大きく関係する。歴代のP T A会長さんの組織があり、全面的に学校への協力をいただいている。

<瓜連小・佐藤>

- 地域住民の方への対応が丁寧である。地域からの要望が優先されがちだが、学校の要望も出し、地域との信頼関係を築いているのは素晴らしい。学校運営協議会は実施していないが、昨年度よりコミュニティスクールの指定を受けている。地域の児童であることを大事にし、「おらが学校」であることを一番大切にしているという思いが、学校と地域の連携を強くしている。

<提案者>

- 開かれた学校づくりを考えると、学校の有り様は、教師自身だと思う。今まで関係しなかった人がいろいろな行事の度に声をかけてくれる。それが広がっていく。教員評価も学校関係者評価と外を向きながら進めていく。実は教員評価こそ真髄があると思っている。開かれた学校づくりというと、人に何かしてもらおうことを考える。学校として無理のないところで、どういうことができる、できないかを考えていくべきだと発表をして思いが重なった。
- この発表だけみると落ち着いた学校に見えるが、日々新たな問題に、先生たちが一生懸命に対応してくれている。先生たちが頑張っていることが学校の力だと思う。小さな成功を大きく喜んで、学校の力にしながら職員を引っ張っていくことが、学校にとっても校長にとっても大事なことだと思う。

### 3 係

- ・世話係 大内良彦 (ひたちなか市立磯崎小学校)
- ・司会者 山崎泰彦 (ひたちなか市立長堀小学校)
- ・受付 富永ひろみ (ひたちなか市立平磯中学校)
- ・記録者 佐藤恵子 (ひたちなか市立平磯小学校)



<提案者> 河野弘毅先生

平成28年度 中央ブロック校長研修会分科会分担（案）

- 1 期 日 平成28年11月11日（金）午後  
 2 会 場 小美玉市小川文化センター「アピオス」  
 小美玉市小川225番地 TEL 0299-58-0921  
 3 研究主題 新しい時代を拓く、心豊かな日本人の育成  
 4 分科会

分科会	主 題	研究の主な視点	担 当
第 1	創意と活力に満ちた魅力ある学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会の変化に対応した学校経営</li> <li>○ 教育目標の設定と具現化</li> <li>○ 教育計画と学校評価, 新しい教員評価・新人事評価</li> <li>○ 組織マネジメントの工夫と改善</li> </ul>	ひたちなか市（小）
第 2	教職員の資質を高める現職教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業力向上のための研修</li> <li>○ 学校課題に対応した研修</li> <li>○ 使命感と教師力を高める研修</li> <li>○ 国際化・情報化に対応できる研修</li> <li>○ コンプライアンス意識を高める研修</li> </ul>	水戸市（小）
第 3	新しい教育を創造する教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得</li> <li>○ 思考力・判断力・表現力等の育成</li> <li>○ 学習意欲の向上</li> <li>○ 言語活動の充実</li> <li>○ 学習習慣の確立</li> </ul>	笠間市（小）
第 4	豊かな学校生活を目指す教育諸条件の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育課程の実施に伴う教育諸条件の整備</li> <li>○ 教職員の服務管理と人的条件の整備</li> <li>○ 学校環境の整備</li> <li>○ 地域環境の活用</li> </ul>	東茨城郡・小美玉市（中）
第 5	健全な心と体を育てる教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊かな人間関係を育てる生徒指導</li> <li>○ 道徳的実践を促す道徳指導</li> <li>○ 健やかでたくましい心と体を育てる教育活動</li> <li>○ 特別な支援を要する児童生徒の指導</li> </ul>	那珂郡・那珂市（小）
第 6	開かれた学校づくりを目指す家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭・地域・関係諸機関との連携</li> <li>○ 幼・小・中・（高）との滑らかな接続と連携</li> <li>○ 学校評議員・学校関係者評価員の活用</li> <li>○ 学校の説明責任と広報活動</li> </ul>	常陸大宮市・大子町（中）